

いわき農林事務所ニュース

2006年1月号

活動状況

○農業・農村男女が輝くために！ ～いわき地方農業・農村パートナーシップ推進大会～

12月1日、「いわき地方農業・農村パートナーシップ推進大会」が農業振興と農村活性化を目的に、いわき新舞子ハイツで開催されました。

当日は、市内の農業者等93名が参加し、「あなたとわたしの共同参画で輝く農業・農村の実現を」をテーマに意見交換と講演が行われました。

意見交換は、15のグループに分かれ、それぞれ「地域で発揮できる私の役割」「家庭でのパートナーシップとは」からテーマを選び行われました。意見交換の方法は、問題点、課題、解決策をメモ用紙に書き出し、意見を図表にして模造紙にまとめる手法を用いました。

メモ用紙に書き出して整理していく作業を通し、普段から思っていることをどんどん出すことができ、夫婦・家族の役割分担、後継者問題、子供の結婚問題から遊休農地問題、集落営農まで各グループ活発な話し合いがなされました。その後、全体会で代表の5グループが検討内容を発表しました。また、その他のグループの検討結果も会場に張り出され、参加者は休み時間を利用して意見交換をしていました。同じテーマでもグループによって異なった意見も多く、これからの活動、生活の参考になる部分が多くあったようです。

午後は、全国女性農業経営者会議会長の今井延子氏から「パートナーシップ型農業経営」と題し、農家の嫁として自らの経験した内容を講演していただきました。「農村女性セミナー受講が転機となり、父親や夫の経営に意見を言い、聞いてもらえるようになった。夫と就農した息子と家族経営協定を結び、この講演会のような活動も協定に含まれている。」など、同世代の参加者は共感する部分が多い様子でした。



グループに分かれて意見交換会

○一般課税と簡易課税、どっちが有利？ ～第1回いわき農業経営セミナー～

12月5日、平成17年度第1回目のいわき農業経営セミナーが県いわき合同庁舎で開催され、管内の農業者等23名が参加しました。

今回は、改正消費税について税理士の木幡仁一先生に話して頂きました。

一般課税と簡易課税のどちらが有利となるのかの選択ポイントとして、設備投資等長期的な事業計画の必要性や課税対象物の把握と記帳方法など、日常の記帳と計画の重要性について具体例をあげながら分かりやすい説明を頂きました。

改正された消費税法により、新たに課税対象者となる参加者たちは、熱心な質疑応答を行い、具体的な事例に則した有意義な内容となりました。

なお、今年度は、平成18年1月に「直売所や任意組合における税務」、同2月には「経営分析の方法」について、セミナーを開催する予定です。



真剣に説明に聴き入る参加者

○大豆の更なる生産拡大を目指して！ ～いわき地方大豆作付実績検討会～

12月6日、いわき地方大豆作付実績検討会が三和(みわ)町中寺のライスセンターで開催されました。

検討会には、生産者をはじめ、流通業者、豆腐業者を含む27名が出席し、実際に収穫された大豆を確認しながら、大豆の生育経過や品質等について検討するとともに、流通情勢について研修しました。

いわき市内では、三和(みわ)町中寺地区、渡戸地区、四倉町白岩地区において、水田の団地29ヘクタールで大豆が生産されています。

本年度の大豆は、梅雨期の降雨の影響で生育が遅れるなどの影響がありましたが、夏以降は天候に恵まれるとともに、雑草・病害虫防除などの管理が適切に行われたため、順調に生育しました。

収穫量は、中寺地区で10アール当たり約210kgと平年以上の作柄となるとともに病害等による被害粒の混入が少なく、粒の張り、充実度も良いなど、品質も良好でした。

転作団地で生産された大豆は、「いわき産大豆使用」の豆腐として需要が高いことから、今後の生産拡大が求められています。



大豆を吟味する参加者

○おいしい福島の新米(まい)ふくみらいをどうぞ！ ～「ごはんの日」PRイベント～

12月8日、いわき市平城東三丁目のマルトショッピングセンター城東店で、「ごはんの日」PRイベントを行いました。

当日は、キビタンの娘のキビィの応援を得て、「毎月8日はごはんの日です。」「おいしい福島の新米(まい)ふくみらいです。」と声をかけながらサンプル米(まい)を配布して、米の消費拡大を呼びかけました。

500g入りのサンプル米(まい)300袋は約30分間でなくなり、キビィも子供たちに大好評でした。買い物客の反応は上々でしたが、同時に行った口頭の簡易アンケートでは、43名のうち、「ごはんの日」を知っていた方は2名(約5%)、「ふくみらい」を食べたことがある方(かた)は7名(約16%)という厳しい結果でした。今後は、このようなPRを強化し「ごはんの日」の周知と「ふくみらい」の消費拡大を図っていきたいと考えています。



「ごはんの日」PRにキビィが大活躍！

○新しい地域農業を目指して！ ～集落営農推進大会～

12月16日、集落営農推進大会がいわき市地域担い手育成総合支援協議会の主催で小名浜のニューおしんにおいて開催され、市内の農業者、農事組合長ら約200人が出席しました。

当協議会会長の庄司一郎氏（JAいわき市代表理事組合長）が「今後、地域における担い手育成と集落営農に取り組んでいこう」とのあいさつの後、農林水産省東北農政局の高橋信悦氏から新しい「経営所得安定対策等大綱から地域農業を構想する」のテーマで講演をしていただきました。平成19年度に導入される「品目横断的経営安定対策」は、集落営農を柱とした担い手に着目した政策であるため、地域の農業や担い手の育成の重要性について理解を深めました。

今後は、集落営農を着実に推進するため、当協議会の構成機関による各種の説明会・座談会等を重畳的に開催する予定であり、地域一丸となった取り組みが期待されます。



集落営農推進大会の様子

○消費者・生産者・食品産業関係者が交流！ ～「食」と「農」の交流会

12月17日、いわき市総合保健福祉センターにおいて、環境にやさしい農業や地産地消などの取組みを推進するとともに、消費者と生産者等の相互理解を促すため、消費者や生産者、更には外食や流通など食品産業関係者を交えた意見交換会を開催しました。

当日は、うつくしま農林水産ファンクラブ会員、うつくしま『食』『農』サポーター、市内の消費者及び生産者、更には食品産業関係者など40名が参加しました。

はじめに、特別栽培の『コシヒカリ』やエコファーマー栽培の『ふくみらい』などの新米、イチジクソースと米粉パンなどを試食し、参加者からは、「『ふくみらい』は、あっさりしていてチャーハンやカレーに合う」、「『コシヒカリ』はとても美味しかった」などの意見をいただきま

した。

次に、「消費者の求める農産物」「食品産業関係者の求める農産物」「環境にやさしい農業への取組み」をテーマに7名の参加者が事例発表を行いました。この事例発表に基づき、意見交換を行い、参加者からは「安全で安心な農産物をもっと作ってほしい」「できるだけ農薬は減らして生産している。また、堆肥なども自分で作っており、農家の努力も理解してほしい」「農家や流通関係者と交流して、農産物の安全・安心に対する理解が深まった」など、沢山の意見が出され、活発で有意義な交流会となりました。



ファンクラブ会員による事例発表

○JAいわき市イチゴ部会の全会員をエコファーマーに認定！

12月28日、エコファーマー認定証交付式が、JAいわき市夏井支店で行われました。今回認定されたのは、JAいわき市イチゴ部会の46名で、平成17年3月に認定された9名を含め、水耕栽培を除いた、土耕栽培の全会員が認定されました。イチゴ部会全体の認定は県内で初めてのことで、更なる発展が期待されています。

交付式では、小山正雄いわき農林事務所長が一人一人に認定証を手渡し、「集落の模範となってエコファーマーの輪を拡げてください。」とあいさつしました。また、交付式に参加した全員で写真を撮影し、環境にやさしい農業に取り組む決意を新たにしました。



認定されたイチゴ部会の皆さん

トピックス

○渡辺小「田んぼの学校」 その9 ～「収穫祭」「正月飾りづくり」～

12月9日、いわき市渡辺町で今年度9回目の「田んぼの学校」が開催され、渡辺小学校5年生21名が参加して、「収穫祭」と「正月飾りづくり」を行いました。

「収穫祭」では、1年間かけて児童達が育てたもち米（こがねもち）を使って、臼（うす）と杵（きね）で餅つきを行い、全校児童と地元の方々の昼食用として、約170食を準備しました。杵を臼にぶつけて杵が削れたり、二人同時に杵を振り下ろそうとするなどヒヤヒヤする場面もありましたが、心を込めて餅をついていました。

また、児童達は、餅丸めにも挑戦し、両手で丸く形を整えるのに苦戦していました。その後、地元の方々にもお手伝いいただき、雑煮、あんころ餅、きなこ餅、納豆餅、じゅうねん餅、大根おろし餅の6種類を作り、全校児童に振る舞いました。あんころ餅やきなこ餅、お雑煮が人気で何杯もお代わりをする児童もいるほどで大変好評でした。5年生は、他学年の児童への配膳にも活躍し、自分たちのつくったお餅を自信たっぷりに勧めていました。

また、三和(みわ)町産大豆が原料のきなこ、勿来の農家の方々の手作りあんこ、三和(みわ)町産の野菜、渡辺町産中玉トマト・ミニトマトなどの食材の説明も行われました。児童達は、地元の野菜や食材を美味しく味わいながら説明を聞き、地産地消に理解を深めた様子でした。

午後は「正月飾りづくり」に挑戦しました。まずは、縄を縫（よ）る作業を地元の方から教わりましたが、始めは手をどう動かして良いのかわからず悪戦苦闘していました。徐々に、コツをつかむと上手に縄を縫っていき、最後には立派な正月飾りを作りました。

今回で現5年生の活動は終了です。次回の平成18年1月24日には、引継式を兼ねた、新5年生（現4年生）の開校式を行います！



「ヨイショ！」臼と杵を使った餅つきに奮闘



自分たちでついたお餅の味は格別！

◀ もどる

すすむ ▶

[[▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#)]